

評価の基準（3：よく当てはまる 2：あてはまる 1：あまりあてはまらない 0：あてはまらない）

大項目	評価項目	保護者	教員	学校関係者	児童	分析 及び 改善へのアクション
1 （主体的な学び・対話的で深い学び）	子どもたちの考える力や学習する意欲を高めるため、子どもたち一人ひとりの自己肯定感を高めたり、各授業の振り返りを徹底したりして、子どもたちが意欲的に学習に取り組めるよう、体験学習や読書活動を含む工夫改善に努めている。	2.1	2.3	2.2	2.3	【分析】 - 漢字の意味・読み方を知り、その漢字を使った文を繰り返し読み、習熟させて文作りを行うことに全校で取り組んだ。学習の振り返りや作文など自分の言葉で書ける子が増えているが個人差が見られる。 - 体験的な活動は、地域との連携のもと工夫されているが、活動をもとにした表現や活動を通した学びを価値づける取組を充実させていく必要がある。 【改善へのアクション】 - 今年取り組み始めた「読み優先の漢字名人」の成果と課題をしっかりと分析し、より田上の実態に合った取り組みにレベルアップしていく。 - 次年度は授業改善と授業分析に重点をおいて全教職員で取り組んでいくことを確認している。 - 教科学習だけでなく、様々な活動を通して子どもたちの書く力の育成を図っていく。
2 の充実	教育活動全体を通じて、道徳教育や命の学習（平和学習・安全教育等も含む）、人権教育を進める等、心の教育の推進に努めている。	2.1	2.3	2.2	2.6	【分析】 - フラッシュカードや場面絵、心情円などの教具は揃ったが、事前の教材研究がどれほど深く行えているかが課題である。 - 教師の指導力アップを図る必要がある。 - 授業の内容が子ども心に響いているのか見えにくい。 【改善へのアクション】 - 道徳コーナーの改善・充実を図る。 - 指導力アップのための実践を交流する。 - 道徳研修を実施し、授業改善につなげる。
3 体力づくり	遊びや体育的な行事を通じて、子どもたちの体力・健康づくりに取り組んでいる。	2.0	2.3	2.4	2.4	【分析】 - 楽しい授業の工夫は増えてきているが、体育の宿題の充実にやや課題がある。時期や単元等を意識した子どもたちが「やってみたい」と感じることができるタイムリーな体育の宿題を開発する必要がある。 【改善へのアクション】 - 教科部会で体育の宿題の教材研究を行う。 - 放課後の外遊びの紹介や休み時間の運動教室など遊びの提供を積極的に行う。
4 （組織的計画管理）	子どもたちの学力向上に向けた指導方法の改善や教職員の指導力向上に向けた研修の充実が図られている。 教育活動の充実に向けた業務改善や働き方改革に積極的に取り組んでいる。	1.8	2.2	2.2	2.4	【分析】 - 算数の田上スタンダードの確立を今年度行い、後半全学級で取り組み始めた。また、算数だけでなく他の教科でも田上スタンダードを意識して授業を組み立ててきた。 - タブレット端末の使用も日常的に行うようになってきている。 【改善へのアクション】 - 小中連携を利用し、田上スタンダードを田上学区で共有していく。 - ICT活用を推進し、働き方改革を進めていく。 - 田上スタンダードを他教科でもさらに進めていく。 - 校内研究の充実を図り、全教員の授業公開及び授業をもとにした学びの場「先生の参観日」の取組を進めていく。
5 との連携	ホームページや学校便り・学級学年通信、参観日、懇談会等を通じて、教育方針や教育内容を保護者の皆様に説明したり、子どもたちの活動の様子がわかるように努めている。	2.1	2.1	2.4	2.5	【分析】 - 家庭・地域との連携の基盤となるように、特に学校ホームページで学校の取り組みを発信することに力を入れてきた。「校舎の窓から」のコーナーは毎日更新した。 - 学校だよりには、学年の情報も掲載するようにして、保護者に分かりやすいようにしてきた。 - 教育方針や教育内容について、保護者に説明したり、学校が力を入れて取り組んでいることを理解していただく場が少なかった。 【改善へのアクション】 - 学校からの情報発信や連絡について、ICTやコミュニケーションツールを活用し、保護者のスマートフォンに直接情報を届けるなど、円滑化・効率化を図る。 - PTA総会などの場を利用して、学校の教育方針や教育内容を説明したり、理解していただく機会を持つ。
6	避難訓練や防犯教室・交通安全教室等、PTAやスクールガード等、地域の方々のご協力のもと、防犯・安全に努めたりして、安心・安全な学校づくりに努めている。 学校運営協議会との熟議を踏まえ、地域と連携した教育活動の充実に努めている。	2.1	2.4	2.4	2.5	【分析】 「自分の命は自分で守る」という意識が少しずつ芽生えてきた。登下校時の横断歩道での押しボタンを押すことや不審者訓練での避難の仕方など学校生活でも自分たちで考えて行動できることが増えた。 - 参観の縮小や田上コミュニティの人数制限など工夫しての実施が余儀なくされた。今後地域とPTAと連携して子どもが活躍できる取り組みの検討を行っていきたい。 【改善へのアクション】 - 昔は当たり前のように地域で取り組んでいたことも今の時代は仕組まなければならない。その地域社会総がかりで子どもの育ちを支える「地域学校協働活動」への教員・保護者の意識改革 - 地域・家庭・子どもが協力して取り組める田上コミュニティの開催
7 の連携	保幼小中の子どもの交流や、教員の出前授業等を実施するとともに、田人教や学びの礎事業を通した校種間の合同研修を実施し、保幼小中一体となった教育活動に努めている。	2.1	2.3	2.2	2.5	【分析】 - 保幼小連絡会や小中連絡会を開いたり、出前授業を行ったりして緊密に連携を強めてきた。また、交流活動においては、園児と小学1年生・5年生を中心に交流活動を行ったり、中学生と小学6年生を中心に交流を行ったりして、就学前教育と小学校教育、小学校教育と中学校教育の滑らかな接続を図ってきた。さらに、学力向上の面で連携していくことのメリットが確認できた。 【改善へのアクション】 - 保幼小連絡会、小中連絡会、交流活動の内容をより充実させ、保護者や学校関係者にもそれを知ってもらえるように発信する。 - 学区全体で連携して、読み優先の漢字学習や田上スタンダード等の学力向上の取り組みを推進する。
8	子どもたちに規則正しい生活リズム、あいさつなどの基本的な生活態度を身につけられるように取り組んでいる。	1.9	2.5	2.2	2.1	【分析】 - 昨年度に引き続き、生活委員会を中心に全校へ呼びかけ、学校生活目標を意識した取り組みが定着してきた。その成果もあり、早期発見や早期解決の事象が増えている。 - ゲームをする時間やテレビを見る時間は変わらず多い。 【改善へのアクション】 - ネット犯罪やゲーム依存等の恐ろしさや対策の研修会を開き、保護者にも意識を高めていただくようにしていきたい。 - 来年度は、今年度評価が低かった「あいさつ」を意識した取り組みを、子供たちのアイデアを中心に工夫していきたい。
9 生徒指導体制の充実	子どもたちが生き生きとした学校生活を送れるよう、不登校やいじめなどの生徒指導上の問題について家庭と連携して取り組んでいる。	2.1			2.2	【分析】 - いじめの未然防止についての取り組みや、いじめの疑いがある事案が起これば複数の教員で早期対応を行っているが、未然防止の取り組みについては保護者に伝わりにくい面がある。 - 生徒指導上の問題についてもオープンにできないことが多い。また、特に高学年は、先生に言うとかんがえてしまうから相談しない場合があり、普段から教師との信頼関係づくりやコミュニケーションが大切。 - 不登校傾向の児童に対しては、こまめに家庭と連絡を取るようしたり、専門機関のアドバイスを交えたりしながら、学校外の場や放課後登校なども含めて、その子に応じた対応をしてきた。 - 本校はSCへの保護者相談が他校より少ない傾向があり、本年度は数名の児童へのカウンセリングを進めた。 【改善へのアクション】 - 何か困ったことがあった時、すぐに相談できるような教師と子どもとの信頼関係づくりが大前提になるので、日々の学校生活の中で支持的風土の醸成に努めていく。 - クラス会議やソーシャルスキルを高める取り組みを継続し、子ども同士が認め合い、自己肯定感や自己有用感を高めていけるようにする。 - 今後も学級担任と連携しながら、児童へのカウンセリングを進め、相談する場を増やしていきたい。 - 学校便りや生徒指導便り等で学校の取り組みを知らせ、保護者への啓発をさらにやっていく。
10 教育の充実	特別な支援を要する子どもに対して、組織的・計画的な支援・指導を行っている。	2.1	2.3	2.3	2.5	【分析】 - 前年度からの引継ぎを元に個別の指導計画を作成し、保護者と連携しながら支援を進めることができた。 - 部会の中で、前期の評価の時期と後期の評価の時期が近いという意見もあったため、作成時期や相談の時期について検討が必要がある。 - 通級や別室、学級担任、支援員との情報共有を大切にして、効果的な支援のあり方を検討・実践してきた。 【改善へのアクション】 - 教職員に、年度当初に個別の指導計画作成の見通しを示し、計画的に保護者と連携してもらえるようにする。 - 別室指導については、学級へ児童が戻りやすいように、学級の一日の見通しを伝えるなど、学級担任と連絡票などを活用して支援していきたい。